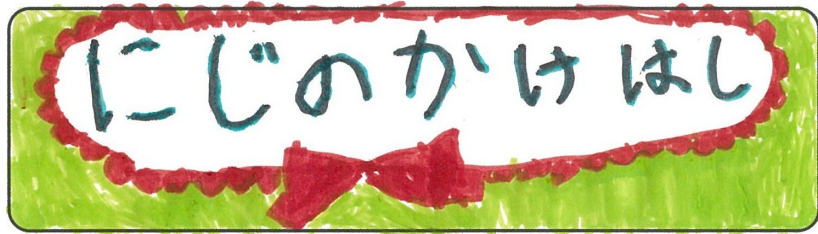


今月の題字

4月から大間々南小に入学する「りななちゃん」はお絵描きが得意。りななちゃんのひいひいじいちゃんが創業した秋葉園さんとは百年近いお付き合いです。



「目の薬師様」として親しまれている長澤薬師は、四百年前に太間々町の基礎を築いたとされる「大間々草分け六人衆」（高草木、長澤、大塚、金子、須永、佐藤）の一人・長澤伊之丞の敷地内に建立されました。古来、「め」

という字を大小九つ書いて奉納すると眼病治癒や予防に効くと言われてきました。今後の人生の「め」も出るかもしれませんよ。桜が見頃のながめ公園や高津戸峡へも歩いて五分の近さです。

九日十時から西條
書道教室の方々にご
協力をいただき、



ンクブレイヤーズの皆さんによる名曲の生演奏もあります。

当日「め」の字奉納をされた方には、「三方良し」のどら焼きを先着百名様に差し上げ、地元銘酒・赤城山のおいしい甘酒も無料サービスいたします。

「三方良し」の会では、「温故知新」を合言葉に、地域の歴史や文化に触れるイベントを開催し、故郷に愛着と誇りが持てるまちづくりを続けています。

只今、新年度の賛助会員を募集中。年会費二千円は地域づくりのために活用します。お申込み・お問合せは足利屋へ。

小耳にはさんだ いい話
(文責・靖)
《260》

信州小布施の地で特産の小布

穴のあいた桶

小耳にはさんだ い 文 《20

信州小布施の地で特産の小布施粟を育てる農業を営み、出版人として、「百年後も読み継がれる本」を世に送り出している木下豊さんは、「美日常の文屋だより」というブログを発信。ネット版「虹の架橋」も毎月読んで下さり、お互いと同じ価値観で地域の清掃活動やまちづくりの活動に取り組んでいます。

今、合同会社文屋の木下さんが発行元になっているプレミアム・ラワット著「穴のあいた桶」が大きな話題を呼んでいます。

昔、ひとりの庭師がいまして。山の上に住んでいた彼は、毎日、天秤棒を担いで川まで下り、水を満たした桶を両端に担いで山の上まで登って行きました。ある日、庭師が山を登っているときに足を滑らせ、ひとつの桶に小さな穴をあけてしまいました。

数カ月後、庭師が山のおもとで休憩していると、水が満杯に入った桶が穴のあいた桶に「お前は全く役立たずだ。毎日親方が一生懸命に我々を運んでも、お前の水はこぼれてしまい半分しか残らない」と言いました。穴のあいた桶は

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館



今月の写真 二一六〇

「三方良し」の会で集めた大間々の古い写真はデジタル化し、後世に残すために保存しています。このたび、その写真の中から百枚を選び、解説やBGMを入れてDVD化いたします。古い写真は歴史の無言の語り部であり、未来へつなげるタイムカプセルでもあります。

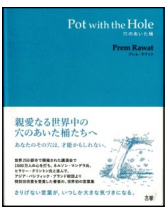
昭和三十年代に撮影された「ミス大間々戴冠式」の写真が見つかりました。この写真が発見されたおかげでミス大間々に選ばれた方の写真や情報も集ってきます。古い写真や情報をお持ちの方は是非、ご提供ください。

「役立たずだ」と言われて悲しくなっていました。その時、落ち込んでいた桶に向って庭師は言いました。「お前は、私たちが通る道を見たことがあるか？ たくさんの美しい花が咲いているだろう。あれはお前のおかげなんだよ。お前に穴を見つけたとき、私は道に花の種をまいた。お前に穴があいているおかげで、私が水を運び上げるたびに、花の苗に水をやることができる。今では、きれいな花が咲き、ミツバチが蜜を求めてやってくる。一帯が見事な花園になっているんだよ」と。穴のあいた桶はそれを聞いて嬉しくなりました。

「穴のあいた桶」の本の帯には、「親愛なる世界中の穴のあいた桶たちへ あなたの穴は、才能かもしれない」と書かれています。「穴のあいた桶」の本の中には示唆に富んだたくさんの寓話と心に響く言葉が並びめられています。「今の習慣が今の結果を招いている。違う結果がほしいば習慣を変えなければならぬ」という言葉にもハッとさせられました。本当に百年後まで読み継がれる本だと思いました。

Pot with the Hole
穴のあいた桶たちへ
From Kawaii

親愛なる世界中の穴のあいた桶たちへ
あなたの穴は、才能かもしれない。
穴のあいた桶は、さまざまな役割を
果たしている。それは、あなたが
想像しているよりも、ずっと
大きな役割を担っている。
穴のあいた桶は、世界中の
穴のあいた桶とつながっている。
穴のあいた桶は、世界中の
穴のあいた桶とつながっている。



三月十九日（日）

四時起床。六度。満天の星と下弦の月が頭上に輝いている。一週間前の満月の朝はマイナス一度。月は西の空にいた。これから数日後には、同じ時刻に刀のような鋭い月が東の空に見えてくる。暖かくなり、夜明けが早くなるのも嬉しいが、「有明の月」を見るのも好きだ。

昔は二十三夜信仰が全国各地にあった。大間々々にも二百年前に造られた二十三夜塔がある。二十三夜の月は真夜中に出て、明け方まで夜空を照らす。二十三夜は女人講中で、女性たちが持ち寄った料理を食べながら語り明かせる女子会のルーツのような日でもあったらしい。二十三夜様は三夜待ち、産夜とも呼ばれ、夫婦がその夜にお参りすると子宝に恵まれるとも言われていた。夏目漱石は、「アイラフユーを」「月がきれいですね」と誤したという。月には愛とロマンがある。愛妻に「月がきれいだね」と言ってみた。

「そっね」と月並な答えだった。



♡ やつちやんの似顔絵提供.. ひさかさん

虹の架橋架検索で、インターネットからでもご覧いただけます

第二六一号は五月一日（月）発行予定です。

赤シャベル砂場に残し母子草
 かわいい孫のために
 愛妻が庭に砂場をつく
 りました。二十枚ほど
 のレンガで囲った小さ
 な砂場ですが二歳の琉
 馬にとつてはマーやバーといっしょ
 に夢中で遊べる大きな世界です。
 砂場の近くには二月に逝つた愛犬
 プーちゃんの犬小屋があります。も
 う犬を飼うことはないと思ひますが
 プーちゃんが長年住んでいた家はそ
 のまま残しておくことにしました。
 季節が巡り、新しい砂場や古い
 プーちゃんの家の周りには、今年も
 露のとうが顔を出し、母子草が小さ
 な花をつけはじめます。母子草の花
 言葉は「無償の愛」だそうです。

